

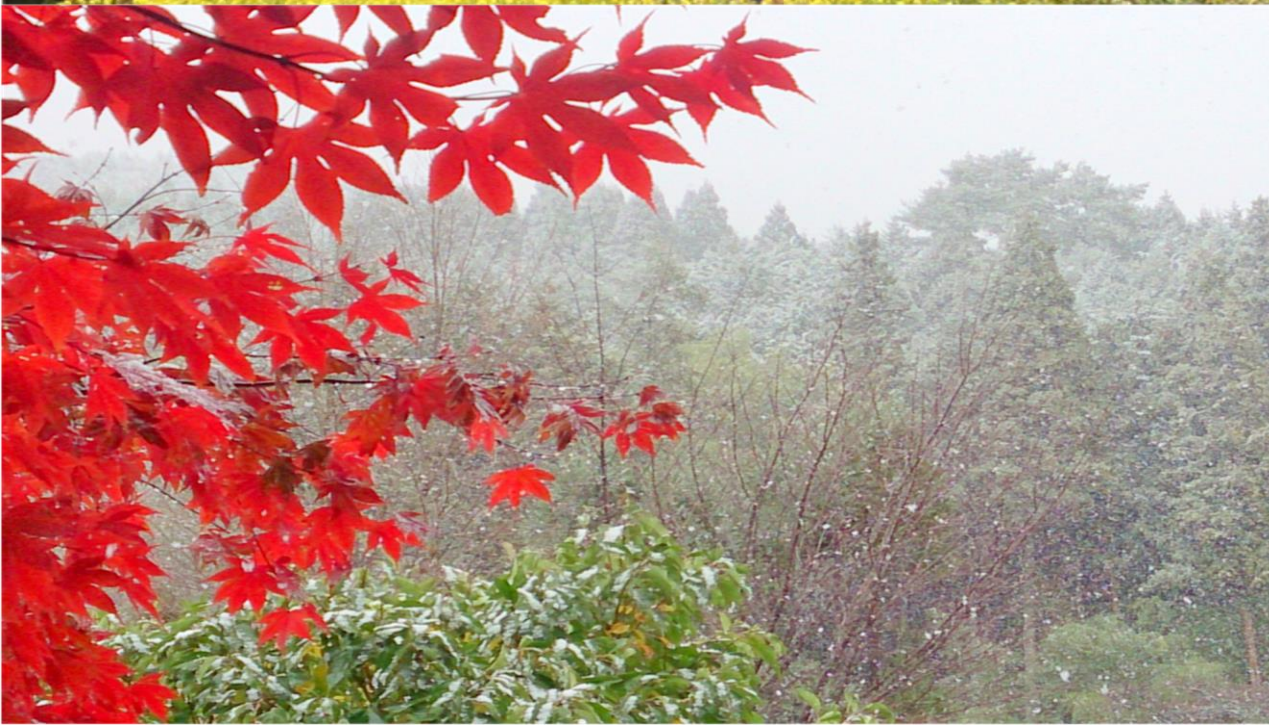
2/14/2019

林業成長産業化地域創出モデル事業 (久万高原町地域)

久万高原町林業戦略課
林政アドバイザー
本藤 幹雄

久万高原町の位置





久万高原町概要

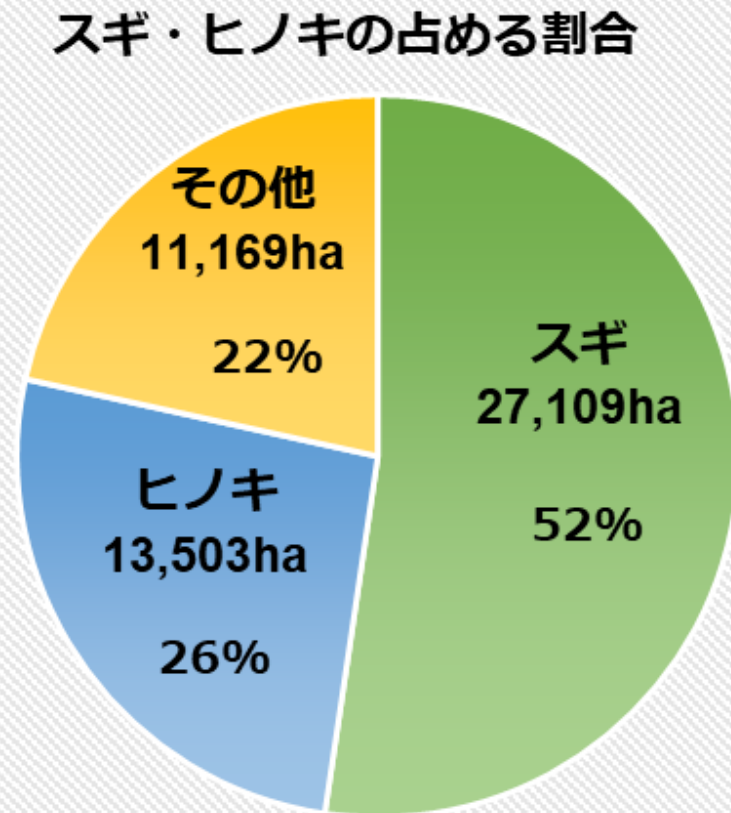
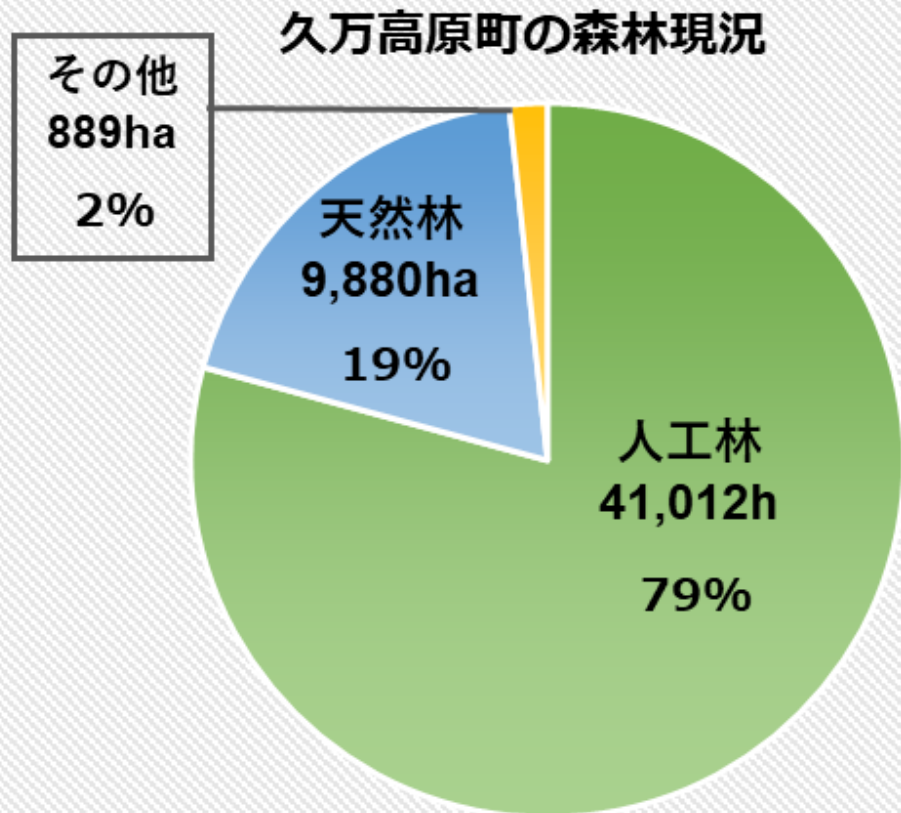
総面積	58,366ha	愛媛県下の市町最大
森林面積	52,464ha	(森林率：90%)
流域名	中予山岳	(1町1森林組合)
人口	8,340人	(2017年6月末現在)
男	3,920	
女	4,420	
世帯数	4,467	
高齢化率	47.02%	(2018年4月1日現在)
平均気温	12.6℃	
最高	34.5℃	
最低	－10℃	
年間降水量	1896mm	冬季は降雪
標高	250m－1982m	最高標高：石鎚山

久万高原町の森林の概要

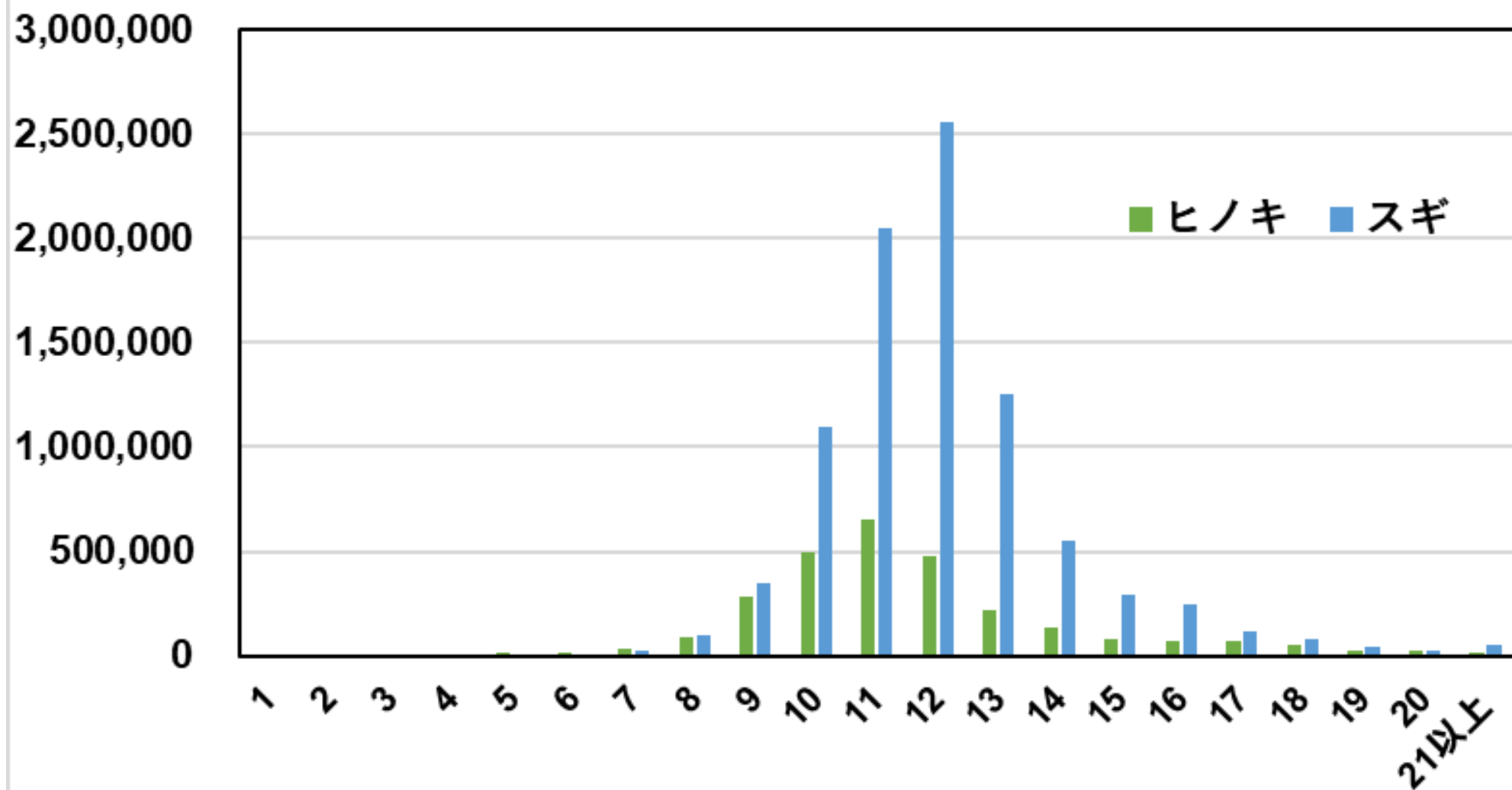
森林面積 52,518ha(100%)

国有林 9,150ha(17.4%)

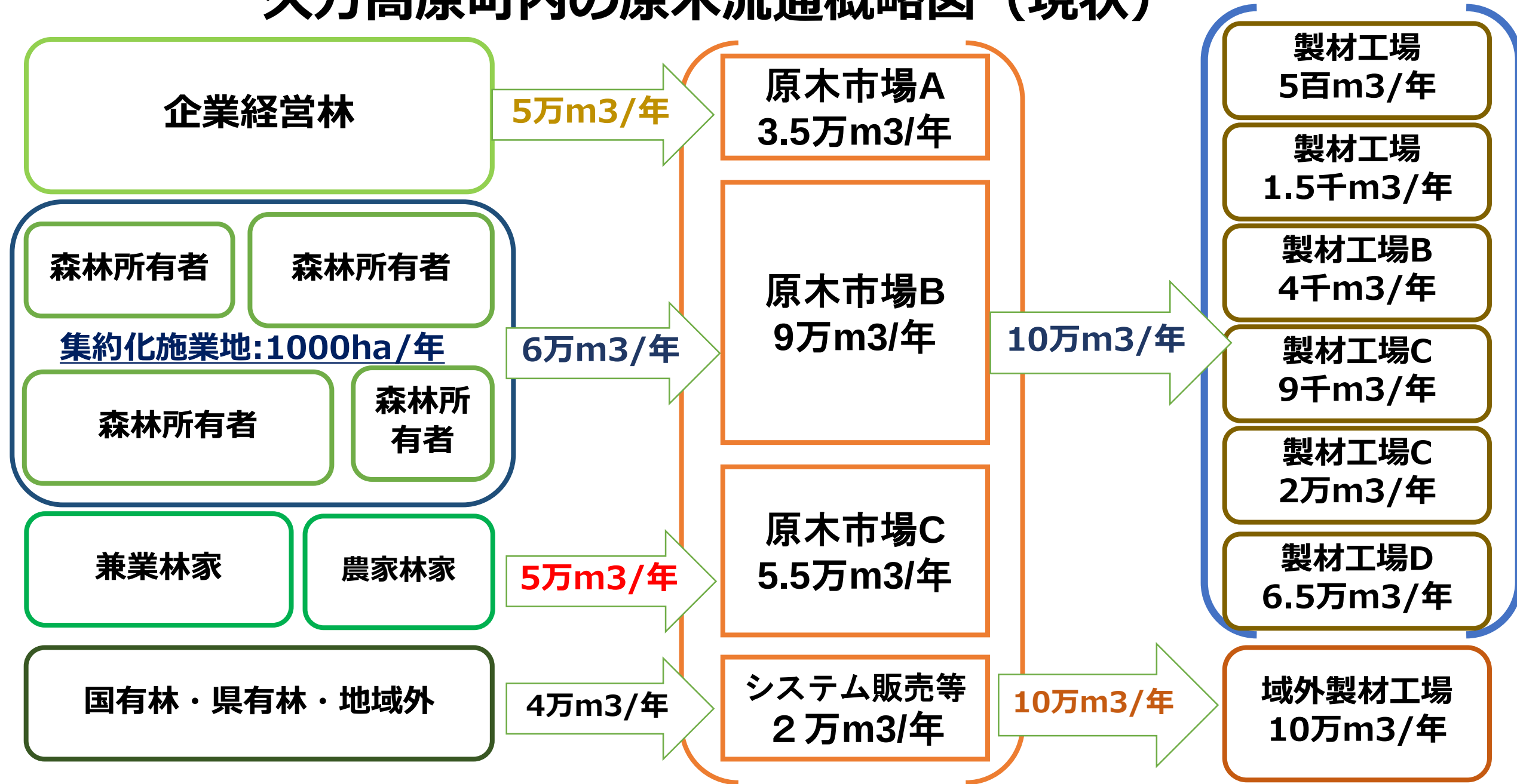
民有林 43,368ha(82.6%)



久万高原町の人工林資源量



久万高原町内の原木流通概略図（現状）



域内林業の現状（当面の課題）

- 現状の域内年間施業面積は概ね1,500ha程度（推計）
- このペースでは、間伐サイクルは30年以上→持続的な森林管理困難
- 木材流通も市売り依存で価格決定は買い方任せ
- 域内に3市場もあり販売ロットも不揃い（安定的取引不可）
- 結果として原木価格が不安定＝山元収入不安定
- 苦勞して育てた優良材が大系化して一般材扱い（価格低迷）
- 高齢化・世代交代等で森林所有者の不在村化進行（森林管理者減少）
- 人口減少に伴う担い手不足の顕在化（所有者、生産者、製材等）
- 木材生産以外に森林の使い道がない＝伐った後の収入がない

久万高原町の林業が抱える根本的な課題

広大な森林を**どのように管理**していくのか？

そこから採れる木材を**どうやって売りさば**いていくのか？

将来的に**どのような森林を残**していくのか？

この町が、これからどう生き残っていくのか？

モデル事業の根幹にある課題

本事業の基本方針

これまでの

【第1ステージ：平成17年度～約10年間】

- 久万広域森林組合を中心とした「久万林業活性化プロジェクト」の推進
- 間伐等の集約化と提案型施業によって**素材生産量と担い手の拡大が図れたが、持続性と適正な利益還元が課題**

これからの

【第2ステージ：平成29年度～5年間計画】 ※モデル事業対象期間

森林資源を核として、「林業日本一のまちづくり」を目指す

総合商社「久万林業本部（仮称）」の創設

- 産学官が一体となり、素材生産から製品の加工・流通・販売までの物流と商流を一元的に管理・運営する**地域総合商社「久万林業本部（仮称）」**を創設する。
- また、森林整備法人的な機能等を併せ持つことで、地域の森林について資源の利用から再造成までの管理等を行う法人とする。
- この本部が、地域における森林林業・木材産業のコーディネーターとして、森林資源の把握や施業の集約化、素材生産の拡大と安定供給、木材の加工流通、さらに**森林資源の再造成などについて、一元管理する新たな体制の構築**を図る。

久万林業本部（仮）の業務「事業の4本柱」

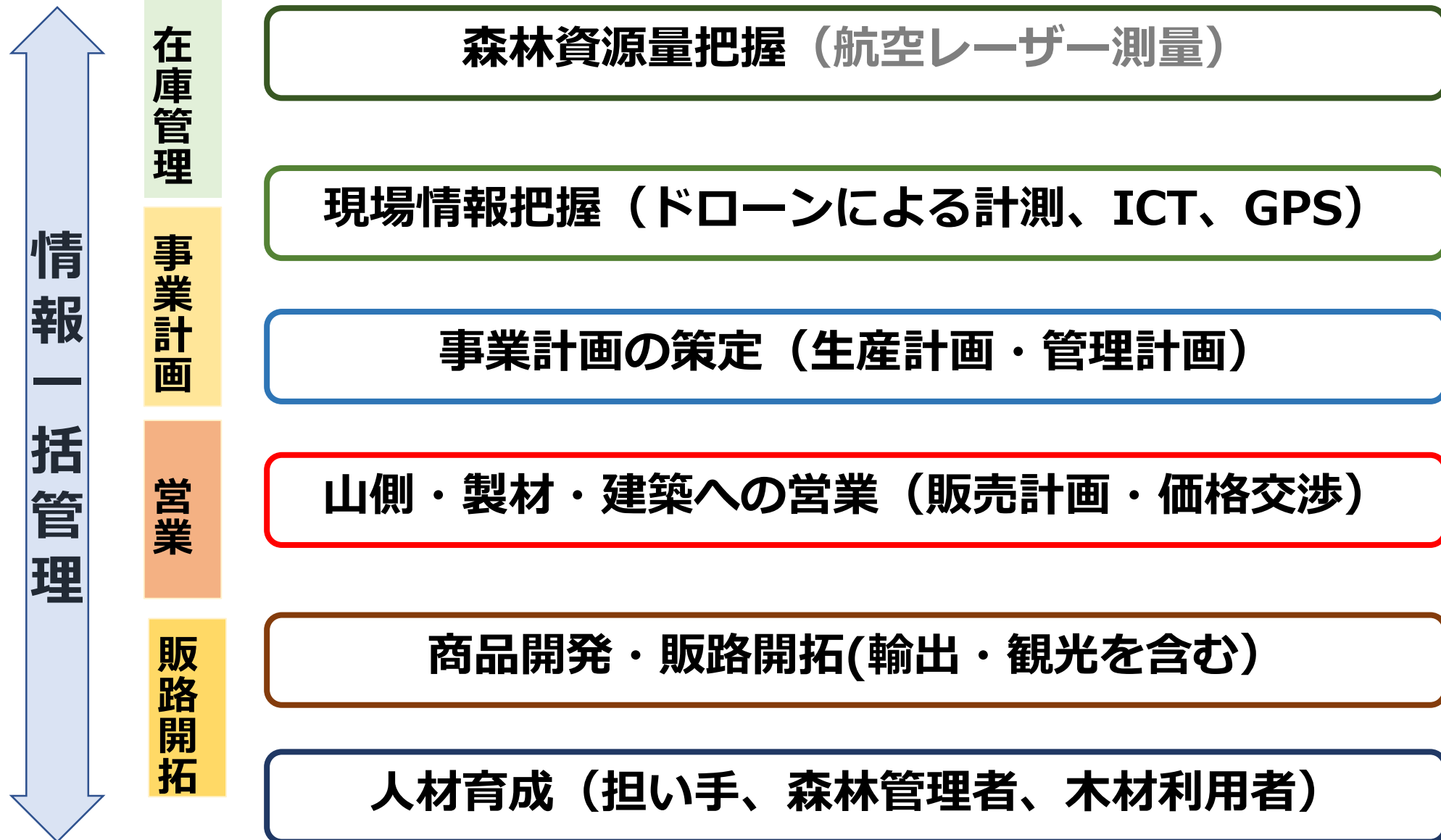
【対策1】 森林資源から木材製品までの物流・商流の一元化

【対策2】 担い手の確保・育成

【対策3】 久万材ブランド化と利用拡大

【対策4】 森林の多面的利用推進

在庫管理と流通改革が鍵！



森林にはどれくらい売り物（在庫）があるのか？

- ・当町には、航空レーザー測量をするだけのお金がない！
- ・でも森林にどのくらい木材があるか（在庫）を知りたい！
- ・それが分らないと各種計画が立たない！！
- ・仕方がないから「手が届くもので工夫」しよう！